

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 2月16日

【評価実施概要】

| | |
|-------|---------------------------------|
| 事業所番号 | 1071000259 |
| 法人名 | 加納商事株式会社 |
| 事業所名 | グループホームゆうあい |
| 所在地 | 富岡市中高瀬61-5 (電話) 0274-62-3252 |

| | |
|-------|----------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構 |
| 所在地 | 群馬県前橋市新前橋町13-12 |
| 訪問調査日 | 平成21年1月22日 |

【情報提供票より】(平成20年 12月 22日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|---------------|----------------|------------|
| 開設年月日 | 平成 13年 10月 1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 21 人 | 常勤 9人, 非常勤 12人 | 常勤換算 14.7人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|------|------|
| 建物構造 | 木造瓦葺造り | | |
| | 2階建ての | 1階 ~ | 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|-------------|----------------|------------|
| 家賃(月額) | 45,000 円 | その他の経費(月額) | 光熱水費300円/日 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有 90,000 | 有りの場合 償却の有無 | 有 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| 又は、1日1,200円 | | | |

(4) 利用者の概要(12月 22日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 6 名 | 女性 | 12 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 7 名 | | |
| 要介護3 | 4 名 | 要介護4 | 4 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 83 歳 | 最低 | 74 歳 | 最高 | 95 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 協力医療機関名 | 西毛病院 ・ 公立富岡総合病院 ・ 公立七日市病院 ・ 西毛病院歯 |
|---------|-----------------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街に立地し、建物の外装や敷地内の庭木等が近隣地域の風貌によく溶け込んでいる。ホーム内部も花木やレクリエーションの作品等が点在し、家庭的でゆとりの感じられる空間がつけられている。運営者から一スタッフに至るまで、認知症ケアに対する興味・関心をはじめ、意識や知識が高く、足湯や軽体操等の対人ケア、汚物入れやトイレの壁面カバーの創作、手指消毒や清潔不潔動作の徹底等、ケアをする上での考え方を踏まえたケア技術や環境整備等の方法を、工夫・開発する姿勢には目を見張るものがある。また、食事に地域の農家からもらった食材を用いたり、地域に馴染みの深いメニューを取り入れたり、近隣住民と共に生活を送る入居者とその家族のあり方を配慮したスタンスが確立されている。見出された課題に優先順位をつけ、更なるサービスの質の向上を目指して堅実に研鑽を行っているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を職員会議で話し合い、職員研修体制の整備をはじめ、危険物や化粧品等の取り扱い方や目を離した際の入居者の無断外出等を具体的に検討している。危険物の取り扱いに関しては継続して整理整頓に努め、無断外出への対応は補助的に設置したセンサーを活用しつつも、職員の気配りや目配り等を徹底していただきたい。職員を育てることについては、外部の研修や講習等を柔軟に受講できる体制づくりに努めると共に、ホーム内での職場内訓練をさらに強化することを期待する。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員会議等の大々的な機会の他に、朝のミーティングや昼の休憩時間を活用し、職員一人ひとりが考えや意見を述べる形態を取っている。日頃の業務をとおしての気づきや疑問をその都度検討し合うことは重要であり、今後も職員会議と並行して行っていただきたい。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>所定のメンバーの参加による会議を奇数月に定期的に行い、事業所から入居者や行事、外部評価の報告、時事や季節等に応じた話題・議題提供をしている。しかしながら、話題・議題が事業所からのものに限局されており、事業所以外の会議メンバーからのものが少ない。また、市の職員の参加が1回のみであることから、メンバーが偏在しない会議のあり方やメンバー相互で問題提起や意見交換ができる雰囲気づくり等を会議の場で検討していただきたい。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会や電話等による定期的な意見や要望の聴取をはじめ、意見箱や一筆箋等を用いて、面前では言いにくい苦情や不安等の収集にも努めている。基本的には、家族がいつでも、何でも言えるような雰囲気づくりを日頃から行い、入居者および家族と職員間の壁を作らない、取り扱う対応のあり方を徹底している。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎月、地区の広報誌が届けられ、散歩時は地元の方々や挨拶を交わし、野菜や果物、おはぎ、赤飯等の授受を行っている。また、地元の道路清掃や生ゴミ当番に職員が参加し、災害時等に地域の方々から協力を得られる関係づくりに努めている。さらに、中学生の職場体験学習や看護学生の実習の受け入れ、踊りやハーモニカ、歌等のボランティアが来訪した際は、近所の方に呼びかけ一緒に楽しんでいる。</p> |

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 開設時からの理念に、「地域の中でその人らしく生きるために、職員は様々な情報を共有し、支え続けていきます」の文言を加え、入居者本人や家族、職員等が地域の中で生活することの重要性を、客観的に捉えられる理念を掲げている。理念の作成にあたっては、文言の一言一句およびニュアンスに至るまで、職員全員で話し合い決めている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 玄関をはじめ、ホールや事務室等に理念を掲示し、ミーティングや会議等で理念の内容を確認している。入居者へのケアに理念を反映することを心がけており、日々の実践の中で迷った時も理念に立ち返り介護している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の農家の人が顔を出し、広報誌や野菜を届けてくれたり、入居者のお茶飲み友達になってくれたりしている。また、中学生の職場体験学習や看護学生実習を受け入れたり、地区の道路愛護への参加をしたり、可能な範囲で地域の介護相談の場としても活用されている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価の意義は職員全員が理解しており、自己評価は昼のミーティングや会議等の時間を活用して全員で行っている。外部評価の結果についても会議で報告し、職員研修体制の整備をはじめ、危険物や化粧品等の取り扱い方や目を離れた際の入居者の無断外出等を具体的に検討している。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、年5回1月を除く奇数月に行っている。出席者は、区長、民生委員、入居者家族等及び職員であり、市の職員に出席依頼をしているもののこれまでに1回参加したのみである。ホームから入居者の状況や行事、外部評価の報告をしたり、ケアプランの改善や感染症対策の進め方等の話題を提供しているが、外部の出席者からの問題提起や意見はほとんどみられない。 | ○ | 地域密着型サービスの事業所として、ホームには地域の理解と支援を得るために、引き続き市の職員の参加や外部参加者の忌憚りの無い意見表出等を求める声かけをして頂きたい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|--|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 年2回の市主催の地域ケア会議で、担当課職員と顔を合わせ情報交換している。また、関係会議や講演会に参加したり、地域包括支援センターと申請代行のやり取りやホームの空き情報の提供等の連携は取っているが、積極的にコミュニケーションを図る機会を設けたり、課題への協働的な取り組み等はしていない。 | ○ | 継続的かつ深層的な関係を構築するためには、ホーム側からの積極的な呼びかけを続けるとともに、まずは、市職員の運営推進会議への定期的な参加を期待する。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族の面会時や電話で、入居者の生活の様子や健康状態等を報告している。特に、体調の急変時はすぐ電話で報告をしている。日常生活の様子の写真を家族に毎月送っていたが、賛同を得られない家族もあり、ホームの日常を記事して報告する「ゆうあいだより」を送付している。小銭を持っている入居者については、面会時等に家族へ金銭出納の報告を行っている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議への参加時や面会時には、家族が話しやすい雰囲気づくりに努めたり、意見や考えを誘発する言葉かけをしている。家族からは、身支度やリハビリテーション等に関わる要望が出され、可能な範囲で運営に反映している。また、家族の表出しにくい思いや要望等を得ることを目的に、玄関付近に意見箱を設置したり、一筆箋という形で職員が家族に労いの言葉を送る等の工夫を行っている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 馴染みの職員による支援が受けられるように、極力異動は行わないように留意している。ただ、特定の入居者と職員の関係が形成されないよう、管理者がバランスよくシフトを組んでいる。また、止むを得ず職員が離職する場合は、他の職員が入居者の悲壮や焦燥の感情が癒えるまで寄り添ったり、場合によっては詳細な説明を行ったりと、入居者の心身及び生活へのダメージを防ぐ対応をしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職場内訓練は、管理者が新人につくことをはじめ、感染症対策等の知識と方法の共有、足湯等の工夫したケア技術の研鑽等を行っている。職場外訓練は、管理者からの教育研修に関わる情報をもとに、特定の職員が休暇に研修会等に参加し、会議で全体に報告する形を取っている。 | ○ | ホームは、経験豊かな職員による教育的な基盤を備えていることから、勤務年数に応じた段階的な教育プログラムに沿ったホーム内職員教育の展開、勤務日での外部研修の実施と外部研修内容のホーム内での活用等を行っていくことが望まれる。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着型サービス連絡協議会の職員交換研修への参加をはじめ、グループホーム大会への参加、運営者・管理者が複数の同業者との情報交換等をする機会を設けている。特に、同業者との交流は足湯や排便時の汚物の処理方法等のケアの工夫、開発を共有する場になっている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前に、入居者および家族にホームの情報提供をはじめ、見学や体験入居等をして頂き、十分納得した上で入居を決めてもらっている。入居後は、入居者個々人の要望や思いに可能な限り寄り沿ったケアを展開し、徐々にホームでの生活に馴染めるよう支援している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 食材の下ごしらえや洗濯物たたみ、汚物処理に使う為の新聞折りやゴミ入れ等を、入居者と職員が一緒に行っている。また、入居者に漢字や地区の昔の話を教えてもらったり、職員が疲れて元気がない時や失敗した時には、入居者が励ましてくれる関係を担保している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者に声かけを行ったり、言動を把握したりすることで、僅かな反応も捉えるような努力をしている。特に、体調不良時は綿密に行動観察を行い、意向を積極的に受け入れることと、禁忌のことは何度でも説明して理解してもらうことを、時と場合に応じて使い分けた対応を徹底している。また、朝や昼食後のミーティング時に、職員全員で検討してケアの方向性を統一している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 入居者本人や家族には、日々の関わりをとおして希望や意見を聞き、ミーティングや職員会議の中で入居者の希望や意見を踏まえた検討を行っている。また、医師からの意見も参考に入居者本位の介護計画を作成し、最終的には入居者および家族に確認してもらっている。特に、地域で生活することの意義を盛り込んだり、専門用語を出来る限り省いた分かり易い計画の作成を目指している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 心身状態の変化等について毎月モニタリングし、それを参考に職員や医師等と検討した上で、基本的には半年ごとの介護計画の見直しを行っている。入居者および家族の要望や意見を広く求めるが、適切な介護計画か否かの判断を行い、詳細な説明を行いお互いに納得した形で最終的な計画書としている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 通院時の送迎や受診援助をはじめ入院時家族が来るまでの付き添い、入院中の洗濯物の運搬や買い物等入居者本人および家族の状況により柔軟な支援をしている。また、近隣の病院や往診医と綿密な医療連携体制をとっており、入居者および家族に負担が少なく、希望する形に添った支援を展開している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者本人および家族の希望するかかりつけ医が、全員ホームの協力医であり、円滑に往診や受診が行えている。また、職員は往診日の前に入居者や家族に医師に聞きたいことを事前に確認し、ホームでの身体状況の観察の様子と併せて情報提供を行っている。さらに、診察時の情報はノートに記録し、家族に詳細な説明を行う際や病院での受診の際に活用している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 最後までホームで生活を送らせたいという家族の希望は多いが、現時点では看取りは行っておらず、入居時に入居者本人および家族に説明し、職員間でも方針の統一を図っている。入居者の症状が重症化したり、特別なケアを要する状態になった場合でも、職員に複数の看護師がいることから、主治医や家族との連携を取りながら、可能な限りホームで支援している。また、緊急時マニュアルをもとに、職員は的確な判断が統一して行えるよう備えている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 入居者と会話をする際は、畏まり過ぎず、くだけ過ぎないバランスを意識した対応を心がけている。トイレ誘導時言葉かけに注意し、入居者のできる所を判断し、過剰なケアは行わないように留意している。また、個人情報に記載されている記録等は、第三者の目が届かない部屋に収納されており、開示請求があった時のみ閲覧できる体制をとっている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者は、好きな歌番組のテレビを観ることをはじめ、気ままに外出したり、レクリエーション時に足湯をしたり等一人ひとりのペースに沿った生活を送っている。また、居室で食事を摂ったり、入浴を拒否する入居者の意向を受けながらも、さり気ない介助や清拭による保清の援助等を補完的に行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者の希望する献立を取り入れることをはじめ、地元の新鮮な食材を使ったり、季節感のあるメニューになるような工夫をしている。近隣の方からもらった野菜も食材に加え、下ごしらえを入居者と一緒に行っている。運営者の食に対する強い思いから、食事は全て手作りとし、調理員をケアスタッフとは別に雇用している。食事前に手足の運動やメニューの説明をし、食欲や食事を摂ることに対する意識を高めたり、職員全員が食卓の輪に入って入居者と一緒に楽しく食べている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 基本的に入浴日は決まっているが、入居者の希望がある場合や皮膚疾患のある入居者は、毎日入浴の支援をしている。楽しく入浴できるよう各温泉の入浴剤を入れたり、時には季節感のあるゆず、菖蒲、ばら、リンゴ湯等を行っている。入浴拒否のある入居者には、足湯や清拭をしたり、言葉かけをしながら入浴したくなる雰囲気づくりを支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 集団として、ホール蹴りやハンドボール投げ等のレクリエーションを行っている。また、洗濯物たたみをはじめ、針仕事や書き物、郷土食作り、ゴミ箱作り等、入居者一人ひとりの力が発揮できることも行っている。気晴らしとしては、天気の良い日に庭に出て花を見ながらお茶会を楽しんだり、ボランティアによる踊りやハーモニカ、歌を楽しんでいる。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 寒さや暑さが厳しくなく、天気の良い日は散歩や買い物に出かけている。女性の入居者は、マニキュアや化粧品等を楽しみながら、戸外ヘッドライブや花見に出かけることもある。ファミリーレストランやラーメン等の外食の計画も立てるが、入居者が個別性に沿った行動ができるように、外出を拒否する入居者や別行動を取りたがる入居者に対する職員の配置や動き方を工夫した支援を行っている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員全員が鍵をかけることの弊害を理解した上で、鍵をかけないケアを徹底している。特定の入居者が徘徊で外に出て行った場合、地の入居者が教えてくれたり、近所の方が知らせてくれる体制が整っている。また、地域の方にホームの散歩コースを知らせてあり、万が一の事態に備えて協力依頼もしている。最近、玄関に入出を知らせるセンサーを付け、補助的に入居者の出入りを把握する試みを行っている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 防火管理者の研修を受けた職員をリーダーとし、年2回の避難訓練を入居者と一緒に行っている。また、災害時のマニュアルや緊急時の連絡網を作成したり、心肺蘇生の研修を全員が受講する等、もしもの場合でも的確な判断に基づく行動が統一して取れる備えをしている。さらに、災害時、地域の方々に協力を得られる関係づくりに努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 入居者個々の毎食の摂取状況を確認し、お粥、ミキサー食、とろみ食等の一人ひとりの状態や能力に応じた提供支援をしている。地域の食文化を活かした献立やパン食の入居者が多いため朝食はパンをメインにした献立を取り入れたり、昆布茶等の好みの飲料摂取を1日5回昼と夜間に行い、脱水や風邪を予防する等の工夫した支援を行っている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関やフロアの要所要所に椅子やソファが置かれ、身体を休める配慮がされている。ホールは窓が大きく明るく、壁面には入居者の作成した貼り絵やイベント時の写真等が貼られ、テーブルや台の上には季節の花が飾られ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、入居者にケアをする時と食事を作る時のエプロンを使い分けたり、感染症予防を目的とした手指消毒薬を各所に設置したり、トイレの壁面を交換可能なカバーで覆う等、衛生的な環境を保つことに努めている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には、使い慣れた整理ダンスや椅子、薄型液晶テレビ、日記や短歌の道具等が持ち込まれている。また、孫の写真や好みの歌手の写真、イベント時の製作品等で飾られ、居心地よく過ごせるようになっている。また、点滴や簡便な医療ケアが、無理なく安心して受けられる配慮がなされている。 | | |